

ひみつの地図

地図のひみつ



会期：平成 28 年

1月9日（土）～ 2月28日（日）

9:00～17:00

※月曜日・祝日は休館日となります。

場所：1階展示室



埼玉県のマスコット
「コバトン」

埼玉県立文書館

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂 4-3-18

Tel:048-865-0112

彩の国



埼玉県

無料 入場

平成 28 年 1 月 9 日（土）～2 月 28 日（日）

県立文書館 コーナー展示

「地図のひみつ ひみつの地図」

ごあいさつ

平成 4 年 11 月 25 日、文書館内に都道府県としては全国初の試みとなる地図資料を収集・保存・活用する「地図センター」が開室し、現在約 75,000 点の地図資料が収蔵されています。近年頻発する自然災害により、過去の地域の様子を知る資料として社会一般の地図への関心は日々高くなっております。

普段手に取る機会の多い地図ですが、時代によってその役割を変え、外交と戦争においては機密性の高い重要資料として秘されたこともあります。

本展示では、「地図のひみつ ひみつの地図」と題して、地図の仕組みや、戦時中の軍事秘密図、江戸期の発禁図や世界図などを、「ひみつ」というキーワードを通して紹介します。本展示から多様な地図の世界を知っていただければ幸いです。

最後に、本展示を開催するに当たり、御協力いただきました一般財団法人 地図情報センター、その他関係各位に厚くお礼申し上げます。

展示テーマ

㊦天文と測量のひみつ㊦

天文と測量というと、一見関係がないようにみえますが、実は深い関係があります。享保 5 年(1720)の禁書緩和令により西洋天文学が伝わり、より精度の高い地図作りの技術として、天文観測による観測地点の経緯度を求めることが測量に必要な不可欠なものになってきました。これは天体、主として恒星や太陽の高度、方位角および時刻を観測し、観測した地点の地球上での位置（経度、緯度）、方位を定める測量法で、天文測量といえます。歩測や間縄、鉄鎖を使用した測量法（量地）に天体観測（測天）を併用した、「測天量地」という測量によって、より正確な地図を作成することができるようになりました。

㊦鎖国時代のひみつの世界図・日本図㊦

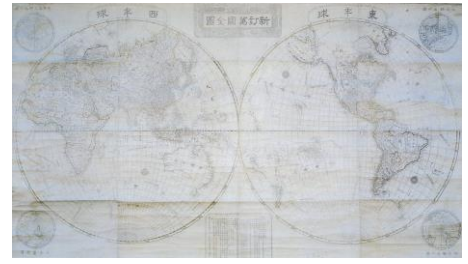
享保 5 年（1720）、八代将軍徳川吉宗はキリスト教以外の洋書輸入を解禁しました。これにより、多くの外国文化が中国やオランダを通して伝えられました。

「新訂万国全図」（粕谷氏収集 1）は、幕府が天文方・高橋景保に命じ作らせた世界図です。文化 4 年（1807）、高橋は幕命を受けると、天文学者間重富、蘭学者馬場佐十郎とともに、イギリス製のアロースミス世界図や間宮林蔵の樺太調査など最新の情報を反映させた手描き世界図を完成させ、文化 7 年に上呈しました。その後、日本で初めて洋風銅版画を完成させた亜欧堂田善によって筆彩が施された銅版図として公刊されています。

図の特徴として、日本列島を中心に配し、四隅に京都を中心とする半球図を添えるなど、日本的な独自性を有する江戸末期の代表的な世界図となっています。

江戸末期には、こうした限られた身分の人々だけでなく、一般の人々の地理的な欲求に応えるべく、多くの世界地図が作られました。なかでも、中国で活動していたイエズス会宣教師マテオ・リッチ（1552～1610）が、中国人地理学者の李之藻（1565～1630）とともに刊行した「坤輿万国全図」は、解禁後の日本に大きく影響を与えました。「万国輿地全図」（平川家 1857）は、全世界を一面図に表した卵形図で、伝説上の南方大陸メガラニカ（墨瓦臘泥加）が描かれていることから、マテオ・リッチ系世界図の系譜であることがわかります。また、「万国山海輿地全図」（井上家 1096）は、地理学者の長久保赤水（1717～1801）が作成した「地球万国山海輿地全図」をもとに、庶民に向けて弘化4年（1847）に出版されました。赤水は、リッチの図を原図に描いたと言われています。

また、第1次ロシア使節ラックスマンの根室来航以降、人びとの関心は北方地域へと向けられるようになりました。「蝦夷国全図」（小室家 4675）は、天明6年（1786）に刊行された林子平の『三国通覧図説』の付図5枚の一つです。寛政4年（1792）に『三国通覧図説』は絶版となりましたが、付図は模写されたものが比較的多く残っています。



「新訂万国全図」(粕谷氏収集 1)

㊦ひみつの世界地誌㊦

元禄8年（1695）、天文学者・西川如見はオランダ人との接触によって得られた外国事情に関する知識をもとに、日本初の海外地誌書『華夷通商考』を著しました。後に訂正増補したものが『増補 華夷通商考』（新井(尙)家 25192-25196）です。これには世界図“地球万国一覽之図”が記されており、これは南北アメリカが日本で初めて紹介されたものといわれています。また、江戸中期の儒学者・新井白石は、宝永5年（1708）に屋久島に潜入してきたイタリア人宣教師ジョバン・シドッチを審問し、諸外国の歴史・地理・風俗やキリスト教の大意をまとめた『西洋紀聞』（小室家 2287・2288）を1715年頃に完成させますが鎖国下のため公にされず、秘かに写本によって伝えられました。

㊦ひみつの伊能図㊦

伊能忠敬（1745～1818）は、50歳の時に江戸の天文方高橋至時入門し、天文学・測量学を修めました。寛政12年（1800）4月、江戸から蝦夷地へと歩みはじめ、約17年かけて日本沿岸の実測を行いました。測量成果は忠敬の死後、「大日本沿海実測全図(実測輿地全図)」と各地点の緯度や測量の記録を著した『大日本沿海実測録』（14巻）として、天文方高橋景保によって幕府に上呈されました。上呈された日本図は、大図214枚（1:36,000）、中図8枚（1:216,000）、小図3枚（1:432,000）の3種あります。しかし、皇居紅葉山文庫の火災や関東大震災によって、原本は伝世せず、現存する図は写本類になります。

伊能図の特徴は、海岸線と主要街道沿いの実測に基づき作成されていることにあります。そのため、随所に空隙(くうげき)がみられ、山や河川があまり描かれていないことがわかります。しかし、伊能図は国の内外を問わず、近代日本図の原点として影響を与え続けました。

伊能図は江戸幕府により厳重に管理されたこともあって、国内では長らく地図の存在や忠敬の業績について一般に知られることがありませんでした。「故伊能先生事蹟」（西川家 2963-1）

は、明治15年(1882)9月、明治政府の元老院議長で日本赤十字創立者の佐野常民が東京地学協会の総会にて行った講演録です。佐賀藩士だった佐野は長崎海軍伝習所で見た伊能図小図の精緻さに感嘆したことから、功績をたたえ、贈位と記念碑建立を提案しています。この講演をもととした忠敬の生涯が国語教科書に載り、後に修身教科書に掲載されたことで、広く知られるようになりました。

㊦測量石のひみつ㊦

日本の近代測量の基本となった三角測量は、工部省測量司が明治4年(1871)にイギリス人マクヴィンの指導のもとで始まります。明治15年(1882)には、三角点の選点100点が終了し、明治17年からは陸軍参謀本部測量局がこの測量を引き継ぎ、いよいよ全国的な三角測量が始まりました。「陸地測量標ニ関スル説明書各郡長へ回送」(明1548-16)は、陸軍測量部より地図測量に関わる陸地測量標の設置と取扱いについて、埼玉県宛てに送られたものを県内各郡長へ回送した文書です。この文書には、陸地測量部がまとめた「陸地測量標ニ関スル説明」が綴じられており、三角点標石・水準点標石は精密な地図作りには欠かせないもののため、貴重なものとして大切に、永久に保存することが国民の義務である、と説明してあります。

㊦秘密図㊦

「軍機保護法」は、軍事上の秘密、いわゆる軍事機密(軍機)を保護する目的で明治32年(1899)7月15日に公布・施行された日本の法律です。戦前には、軍事上の秘密を保護する必要から、軍事施設等の測量、撮影、模写等が制限されました。これにより、軍事施設などは描画されています。また、明治29年4月に、東京湾要塞地帯として広域の地形図が秘密図に編入され、「神奈川県相模国三浦郡横須賀町外五村」(迅原77)には「軍事機密」とする印が押されています。

㊦地図用紙のひみつ㊦

地図用紙は、大蔵省印刷局において紙幣材料の残りを使用したのが最初だといわれており、当初は三桎100%の高級紙でした。戦後はクラフトパルプと合成樹脂の添加による性能の良い用紙を同印刷局で製造してきましたが、昭和40年代ごろからは、製紙会社で製造したものを使用しています。この地図用紙は、戦前の販売図には「大日本帝国 陸地測量部」と花の刻印、戦後からは三角点△のすかしが入っています。これは、地図の偽造防止と品質を保証するためのものです。

㊦川の海図㊦

「河川航行情報図 荒川」(地図1409)は、海と河川の両方を航行する船舶にとって、海と河川は連続した航路ということもあり、海図と同様の図をとの声から作成された、全国初で唯一の「川の海図」です。船舶が河川を安全に航行する上で必要となる様々な情報を海図に準じて表示しているのが特徴です。

㊦絵図の世界㊦

このコーナーでは、江戸の代表的な絵図師、石川流宣、橋本玉蘭、長久保赤水の作品を紹介いたします。「日本海山潮陸図」(堀口家1613)1/9-1/17、「武蔵国全図」(町田家48)1/19-1/31、「改正皇国地図 [道中図]」(小林(正)家3136)2/2-2/14、「増訂 大日本国郡輿地路程全図」(手塚氏収集1)2/16-2/28

展示資料一覽

資料名	資料番号	和暦(年)	西暦(年)
崇禎曆書測量儀卷	坂本家2349		
初学天文指南鈔 卷之一～卷之五	埼玉県教育史編さん室移籍 101～104	宝永3	1706
天経或問註解	猪鼻家2681	寛延3	1750
規矩元法町見辨疑 卷之一～卷之五	新井(优)家25155～25159	享保19.5	1734
量地指南後篇	川田氏収集1592	宝暦 4. 6	1754
新訂万国全図	粕谷氏収集1	文化7.3	1810
坤輿図識	奥貫家2869～2875	弘化4	1847
増補 華夷通商考 卷之一～卷之五(外夷増附録)	新井(优)家25192～25196	宝永5.3	1708
蝦夷国全図	小室家4675	[天明5]	1785
三国通覧図説・海国兵談	小室家2931-1,~2	[天明 6]	1786
西洋紀聞 上・中巻・下巻・附録(天・地)	小室家2287・2288	明治15. 5	1882
訂正増訳採覧異言 異人申口外～卷之十二	小室家2532～2538	享和2	1790
故伊能先生事蹟	西川家2963-1	[明治15]	1882
遺功表建設費義捐依頼状	西川家2963-4	明治20. 9	1887
遺功表建設地図面	西川家2963-5	[明治20]	1887
證(故伊能忠敬翁測地遺功表建設費トシテ寄附金領収二付)	西川家2963-3	明治20.12. 7	1887
贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表義捐者名録	西川家2963-2	明治22.12.14	1889
大日本沿海實測図・伊能中図・関東	地図497	[明治6頃]	[1873]
改正日本図 五采分図	小室家4688	文化 8. 7	1811
日本輿地図	戸谷家211	嘉永7.8	1854
万国輿地全図	平川家 1857	嘉永6	1853
万国山海輿地全図	井上家 1096	弘化 4.春	1847
世界国尽	猪鼻家2562	明治2	1869
せかい国つくし	根岸(浩)家719	明治2	1869
陸地測量標ニ関スル説明書各郡長へ回送	明1548-16	明治25.9.30	1892
帝国地形原図調製ノ為メ実地助力依頼方ノ件陸地測量部ヨリ通知ニ付秩父郡長へ通牒	明3196-1	明治43	1910
陸地測量部御出版地図下目録	鈴木(庸)家9379	[明治]	
東京(輯製図第十八行第二十四段)	山崎氏収集501	明治21.9.25	1888
神奈川県相模国三浦郡横須賀町外五村	迅原77	明治15	1882
西條町(高知十三号共十六面)	山崎氏収集383	明治41.4.30	1908
西條町(高知十三号共十六面)	山崎氏収集399	[明治39]	1906
5万分1地形図 幸手16	5万055-08	昭和7	1932
5万分1地形図 深谷14	5万055-11	昭和34	1959
5万分1地形図 大宮16	5万056-05	平成16	2004
2万5千分1地形図 越谷19X	2.5万056-01-4	昭和31	1956
2万5千分1地形図 越谷19Y	2.5万056-01-4	昭和31	1956
河川航行情報図 荒川(埼玉・東京)	地図1409	平成16	2004
※ 日本海山潮陸図	堀口家1613	元禄 4	1691
※ 武蔵国全図	町田家48	安政 3	1856
※ 改正皇国地図 [道中図]	小林(正)家3136	江戸(安政頃)	
※ 増訂 大日本国郡輿地路程全図	手塚氏収集1	明治 4	1871

※印の資料は上記の期間に展示します

埼玉県立文書館 Saitama Prefectural Archives

〒330-0063

埼玉県さいたま市浦和区

高砂 4-3-18

電話 048-865-0112

FAX 048-839-0539

E-mail p6501121@pref.saitama.lg.jp

ホームページ

<http://www.monjo.spec.ed.jp>

利用時間

午前 9 時～午後 5 時

休館日

毎週月曜日、国民の祝日・休日



彩の国 埼玉県



埼玉県のマスコット

「コバトン」

1/9-1/17

1/19-1/31

2/2-2/14

2/16-2/28